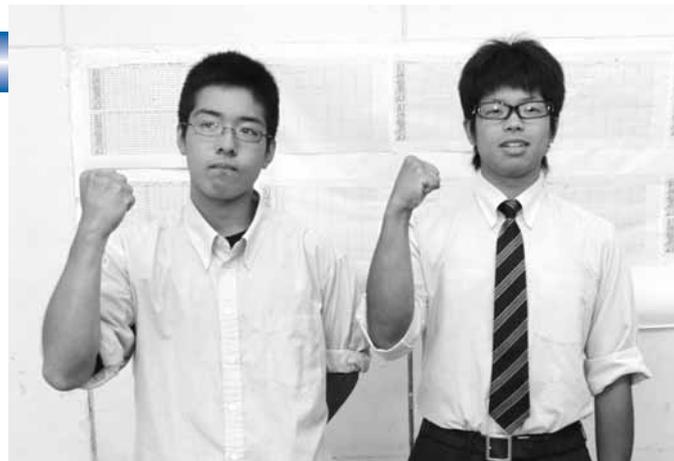




男子舵手付きクォドルブル(写真左から)上野祐次(3年)、山根慶太(2年)、鳥居翔(3年)、佐藤旭(3年)、菅原剛(3年)《敬称略》



男子ダブルスカル(写真左から)田中健也(3年)、佐藤観樹(3年)《敬称略》



女子ダブルスカル(写真左から)佐藤美奈子(3年)、武藤理穂(3年)《敬称略》

東北大会で山田高ボート部 困難乗り越え栄光つかむ

6月17日、東北高校選手権ボート競技において、山田高校ボート部が男子舵手付きクォドルブルで優勝に輝きました。この結果は、選手たちにとって震災の困難を乗り越えた特別なもの。男子主将の菅原剛さんは「少ない練習時間だったが集中して行ってきたので不安はなかった。全国ではメダルを採って町民や支援者の応援にこたえたい」と熱いまなざしで語ってくれました。本大会ではこのほか、男子ダブルスカル2位、女子ダブルスカルが3位と大健闘。女子の佐藤美奈子主将は「優勝に届かず悔しいが、その反面達成感もある。後半もスタミナが続くよう精進し、全国大会では入賞を目指したい。皆さん、応援よろしくお願いします」とさわやかな笑顔で話してくれました。

山田に元気と笑いと感動を！ 大助・花子さんが漫才公演

6月14日、漫才師の宮川大助・花子さんが町中央公民館小ホールで漫才ミニライブを行いました。これは、NHKの番組「きらり！えん旅」収録の一環として行われたもので、会場は250人もの超満員。大助・花子さんの息の合った漫才に会場は笑いが絶えず、一人一人の顔に元気が溢れていました。また、公演では漫才だけでなく、オリジナル曲「捨てたはずの街並み」「魔法のクレヨン」などを、被災地での思い出などトークを織り交ぜながら披露。大助さんの力強い歌声と花子さんのしっとりとした歌声に、観客らはしんみりと聞き入り、時に涙を見せました。公演の締めくくりは、「またね」の掛け声で互いの再会を誓いました。なお、この模様はNHK・BSプレミアムで7月19日午後7時30分から放送予定です。



大助花子さんの掛け合いに会場は盛り上がる(上写真)／公演終了後はお互いに固く握手して別れを惜しまました(右写真)





今月の題字
 平澤 紗梨捺ちゃん
 (山田北小2年)

町のわたい

町スポーツ少年団結団式 町への思い込め活躍を誓う

6月9日、平成24年度山田町スポーツ少年団結団式が町中央公民館で開催されました。結団式には町内のスポーツ少年団13団体の団員180人が参加。団ごとに日ごろの活動の内容や目標を紹介しました。その後、優良団体・指導者に対して県スポーツ少年団表彰を伝達。最後に団員を代表して五十嵐亜輝さん（豊間根野球スポ少）が「大好きな山田町の一員として、自分たちの力が必要になるその時まで、あきらめない強い心で精一杯がんばることを誓います」と宣誓しました。



「復興カキオーナー」出資金贈呈式



カキオーナーの出資金贈呈式 山田の水産業復活の基盤に

6月15日、町役場において「復興カキオーナー出資金贈呈式」が行われました。これは、三陸やまだ漁協（生駒利治組合長）が、カキ養殖漁業を早期復旧させようと全国から出資金を募っているもので、このたび情報産業労働組合連合会（加藤友康中央執行委員長）において約1億4,900万円の出資金が集まったため行われたものです。同連合会では、このほかに約600万円の募金も贈呈。生駒組合長は「この上ない大きな励み。まだ施設整備などの問題もあるが、山田のカキを復活させ、オーナーのもとにカキを送りたい」と出資に感謝しました。本年12月までのオーナー募集では、情報労連のほか約1200万円の出資金が全国から集まっています。

山田北小が鼓笛パレード 健やかな成長と安全を願う

5月25日、山田北小学校（大西洋悦校長）の鼓笛隊（4～6年生、44人）による「青少年健全育成並びに地域安全パレード」が行われました。これは、青少年の健やかな成長と地域安全の啓発を目的に行われるもので、コースは山田北小から関口児童館までの往復約3㎞。パレードに先立ち大西校長は「皆さんが無事に過ごせるのは住民の方々のおかげ。感謝の気持ちを込めてパレードしましょう」と挨拶しました。この日はあいにくの空模様でしたが、鼓笛隊に保護者、おやじの会、子ども安全支援隊も加わり、曇り空を吹き飛ばすように元気に行進。沿道には多くの住民が駆けつけ、演奏に聞き入りました。

